

義(昨年はミラー教授による「Canadian Society and Politics」)。今年はカーティス教授の予定。

二、一九七六年以来、毎年、秋学期二単位の講座を開講しており、今後もこれを継続したい。

三、特定の大学との交換計画はまたないが、一、二の大学から打診があり、可能性を検討している。ユナイテッド・ナショナル・オブ・カナダから各員教授一人が派遣されている。現在は数学専攻のアレン・ゴールド博士が滞在中。

### 立教大学文学部史学科

一、専門課程「西洋史特講5 カナダ史」(一九八〇、八二年度、担当大原祐子助教授)。富田虎男教授が担当する年度には、アメリカ合衆国史を主としながら、カナダ史にも言及。

二、二、三年ごとにカナダ史の講義を

専門課程で続けてゆき、学生のカナダ研究への関心を喚起したい。すでに、大学院課程で二人のカナダ史専攻者が現われている。

### 富山大学教養部

一、本年度後期より、カナダに対する正しい認識を深めることを目的とした「カナダ研究コロキウム」(担当・小島寛教授)を開設する。

### 神戸大学工学部

三、一九八〇年にトロント大学理工学部と、共同研究活動、科学上の教育と研究の領域における情報交換、教官の交換、学部学生、大学院生の交換を推進する協定を結び、実施している。

### 上智大学

一、コンラッド・フォルタン教授が一

般教育科目でカナダの英文学を担当しているほか、スーザン・モルノー講師が仏文学科でフランス系カナダ文学を教えている。

二、フランス系カナダ文学は、十年前、フォルタン教授のもとで開講されたが、のちモルノー講師に受け継がれ、フォルタン教授は一九八一年からカナダ史とカナダ英文学を交互に講義している。

### 上智大学カナダセンター

カナダセンター(主事コンラッド・フォルテン師)は、一九五八年、在日カナダ大使館から寄贈された百五十冊の書籍と在外カナダ人の寄付をもとに、日本とカナダの友好関係を増進させるために設立された。

主な活動は学生による研究会、手工芸品の展示、カナダ文化に関する一般向け月例講演会、学生のカナダ夏期旅行、移住希望者への情報提供、在日カナダ人教育者とのミーティングなど。図書室もあり、また「カナダ研究シリーズ」やニュースレターも発行している。

### 帝塚山短期大学

三、ブリテイッシュ・コロンビア州のコキトラム・カレッジと提携しており、毎年五か月間、英米語コースの学生がここに留学してカナダ体験をしているほか、同カレッジから四人の講師がきて英語を教えている。また食品科学コースの学生

は約四十日間、ブリテイッシュ・コロンビア工科大学でカナダの食品事情について講習を受けている。

### 東京大学教養学部第三教養学科

一、カナダ政府派遣教授によるカナダ研究講座(週一回)。

二、一九八一年にカナダ講座が設けられて以来、派遣教授(今年度はカーティス教授)による講義が続いている。将来は、できればオーストラリア研究、カナダ研究と並列して充実させたい。

### 道都大学(紋別市)

三、一九八〇年に州立カルガリー大学と姉妹提携して以来、当大の建築学部および福祉学部、州大の環境デザイン学部および社会福祉学部との間で、教員を交流し、それぞれの国における状況を講義している。

### 北海道大学法学部

一、まだない。

二、本学部教官を主要メンバーとする北海道カナダ法研究会が昨年発足した。基礎資料の整備充実に努力し、長期にわたる将来の研究の基盤を作りたい。

三、一九七九年にアルバータ大学の準教授が本学部滞在中、共同研究に従事した。また本年四月には、ブリテイッシュ・コロンビア大学法学部との間で共同研究・学術交流計画の推進を申し合わせた。本年度は相互に三人づつ、教官を交換、派遣したいと考えている。



6 学長がカナダ視察へ——日本の大学におけるカナダへの認識を深めるため、カナダ政府はこのほど、6つの大学の学長をカナダに招待した。一行は、バンクバー、オタワ、キングストン、モントリオール、トロント、エドモントンを訪問、カナダの諸大学の学長や、連邦政府および州政府の学術担当者とのカナダの教育制度や大学教育について意見を交わした。写真は左から、1人おいて有江幹男(北海道大学)、福田信之(筑波大学)、柳瀬陸男(上智大学)、頼實正弘(広島大学)、城崎進(関西学院大学)、平野龍一(東京大学)の各学長と、P・バーンズ、ブリテイッシュ・コロロンビア大学法学部長(中央)およびカナダ外務省のジョー・スローン氏(左端)。